

佐渡税務団体連絡協議会長賞

税の意味

佐渡市立佐和田中学校 3年 外内 優羽

私は今まで、税について考えたことがあまりありません。私が知っているのは消費税くらいで、まだ中学生の私には、あまり馴染みがなかったのです。私は幼い頃から、何かを買うとき、少し余分にお金が取られることを「そういうもの」だと思って、詳しく知ろうとしたことがありませんでした。

そこで、税金の使い道を調べてみました。例えば警察署や消防署、市役所、公園、公立病院、ゴミ処理施設、道路や橋の整備、医療費、介護や年金などです。学校だけでも、校舎や机、椅子、黒板、教科書など、様々なものに税金が使われていることが分かりました。

もし、税金がなくなってしまったら、事件に遭っても、火事が起こっても、お金を払わないと対応してもらえないということになります。貧しい家の人は学校に通うこともできなくなり、字の読み書きでさえ困難になるかもしれません。働くことが難しい年齢になっても、お金が無いからと働かなければならなくなったりもします。私がそんな社会の中で生きていかなければならなくなったら、とても大変だろうと思いました。

また、税の種類についても調べてみました。そこで私が注目したのは、相続税です。相続税とは、相続等により財産を取得した場合に、その取得した財産に課される税のことだそうです。例えば、お金持ちのAさんから、Aさんの子供のBさんに財産が相続されるとき、税として一部が持っていかれて、全てを相続することができないということです。私は、最初「理不尽だ」と思いました。しかし、今はそう思いません。試しに、相続税がない場合を考えてみます。お金持ちのAさんから、その子供のBさんに財産が相続されましたが、Bさんは頑張って働き、沢山稼いだとします。Aさんから相続した分とBさんが働いて稼いだ分がBさんの財産になり、またそれが相続され…という風に、どんどん財産が殖えていきます。つまり、貧富の差が大きくなっていくと思うのです。そこで、裕福な人ほど沢山相続税を取って、貧富の差を埋めていくという目的もあるのかなと思いました。

私は今まで税についてあまり知りませんでした。私がこの作文を書けているのは、税金のおかげと言っても過言ではないと思うようになりました。税には、色々な種類があり、それぞれが公平に税を取る等の目的を持っていることが分かりました。なので、これからは勉強ができることや、社会のサービスを少ない負担で利用できることに感謝しながら生活していきたいです。